

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- 1 本特記仕様書は、三原市久井町小林 菰池災害復旧工事（501）に適用する。
- 2 本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
 - ・土木工事共通仕様書（令和3年8月）広島版
 - ・農業土木共通仕様書（平成29年6月）広島県※ 土木工事共通仕様書、農林土木共通仕様書は「広島県の調達情報」に掲載している。
<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/>
 - ・その他関連規格類

第2節 現場代理人の常駐義務の緩和

監督員等と携帯電話等で常に連絡がとれることに加え、次に掲げるいずれかの事由に該当する場合には、建設工事請負契約約款第10条第3項に規定する「現場代理人の工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がなく、かつ、発注者との連絡体制が確保されると認めた場合」として取扱う。

- (1) 請負代金額が3,500万円（建築一式工事にあつては、7,000万円）未満
- (2) 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
- (3) 建設工事請負契約約款第20条第1項又は第2項の規定により、工事の全部の施工を一時中止している期間
- (4) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であつて、工場製作のみが行われている期間
- (5) 前3号に掲げる期間のほか、工事現場において作業等が行われていない期間
- (6) その他、特に発注者が認めた期間

第3節 現場代理人等の兼務

受注者は、三原市が定める「現場代理人及び主任技術者の制度の変更について（令和2年1月6日）」により、現場における現場代理人又は技術者等との兼務を発注者に申請することができる。

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/uploaded/attachment/67063.pdf>

第4節 情報共有システム

- 1 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に基づき実施すること。
- 2 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム
<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html>
- 3 監督員及び受注者が使用する情報共有サービスのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
- 4 なお、工事完成時については、提出する必要がある工事成果品を電子納品すること。また、試行期間中は工事検査を紙媒体で受検することから、受注者は工事成果品1部を紙媒体により提出すること。
- 5 受注者は、監督員及びサービス提供者から技術上の問題点を把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第5節 施工体制台帳
技術者台帳及び役割分担表の提出は不要とする。

第2章 施工条件

第1節 用地
現場の復旧
原形復旧とする。

第2節 建設副産物

1 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））

当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地、又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。

また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地、又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。

なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地、又は建設発生土受入地（一時たい積）への搬出が困難となった場合は、発注者と受注者が協議するものとする。

2 産業廃棄物の場外保管

当該工事により発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において300m²以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事又は政令市長に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは30日以内に廃止届を提出すること。ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。

3 産業廃棄物（搬出）

受注者は、流木等を現場外搬出する場合は、産業廃棄物処理計画書を提出し監督員の承諾を得た後に処理しなければならない。

産業廃棄物処理計画書には、次の関係書類を添付しなければならない。

産業廃棄物処理委託契約書（写）

処理業者の許可証（写）

積込・保管施設、中間処理施設、最終処分場までの運搬経路地図及び写真

受注者は、産業廃棄物管理票（マニフェスト）により、適正に処理されていることを確認するとともに、産業廃棄物処理状況のわかる写真とともに、施工管理資料として提出しなければならない。

また、受注者は平均的な大きさの流木の直径、長さを撮影し、施工管理資料として提出しなければならない。

第3節 その他

1 工事中機資材の仮置き
受注者が責任を持って確保すること。

2 工事保険等

受注者は、本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要にする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。また、加入した保険等については、保険証券の写し（保険以外の場合はそれに代わるもの）を監督員に提出すること。

なお、加入に必要な保険料等は、設計で現場管理費に見込んでいる。

- 3 法定外の労災保険の付保
 - (1) 受注者は、本工事に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険契約（以下「法定外の労災保険」という。）を付保しなければならない。
 - (2) 受注者は、建設工事請負契約約款第54条に基づき、法定外の労災保険契約を締結したときは、その証券またはこれに代わるものを速やかに監督員に提示しなければならない。
 - (3) 法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乘せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第3章 施工・管理

第1節 堤体工

- 1 雑物の除去

掘削をする時は、堤敷内の腐植土、草木根等の有機物質及び風化転石泥土等、基礎として不適當なもの並びに池水の浸透を誘導する雑物は、完全に除去しなければならない。
- 2 表土はぎ取り
 - 1) 表土のはぎ取りは、原則として全面にわたり同時に施工するものとする。盛土の進捗に応じて表土をはぎ取る場合には、表土と盛土を混合しないようにしなければならない。
 - 2) 表土のはぎ取り厚さは、別に指示しない限り30cm以上とする。
 - 3) はぎ取り後、降雨あるいはそのおそれのある場合は、土砂の流出を起こさないよう全面にシートを覆い、水たまりのできないようにしなければならない。
- 3 床掘及び袖掘
 - 1) 床掘及び袖掘は、設計図書に示す深さまで掘り下げ、掘削完了後は、発注者の検査を受けなければならない。ただし、所定の深さ以前に良質堅固な不透水層に遭遇した場合は、発注者の指示を受けなければならない。
 - 2) 床掘及び袖掘は原則として火薬使用を避け、基盤の弛緩を防止し、やむを得ずこれを使用する必要がある時は、発注者の指示を受けなければならない。
- 4 基盤面の仕上げ

基盤と築堤土との接触を密にし、漏水をなくすため基盤面を入念に整形清掃しなければならない。
- 5 旧堤の切取り

旧堤の切取りは段切りを原則とする。
- 6 過掘の処置

過掘の処置については、発注者の指示によるものとし、これに要する費用は受注者の負担とする。
- 7 掘削土の流用

掘削土を流用し施工する場合は不良土等が混入しないようにしなければならない。
- 8 掘削法面の保護工

掘削法面の保護工は十分工程計画を検討し、風化、変質が生じないようにしなければならない。

9 用土

- 1) 用土は、それぞれ設計図に示された位置区分に使用しなければならない。
- 2) 用土は所定の密度が得られる含水比のものを用い、過湿又は、乾燥したものをを使用する場合は適切な方法で含水比の調整を図らなければならない。
- 3) 用土が降雨に濡れたときは、一時他に搬出して乾燥し、発注者の承諾を得た後でなければ使用してはならない。
- 4) 用土が良質な土質であっても凍結しているものは、使用してはならない。
- 5) 降雪又は積雪がある場合は、発注者の指示を受けなければならない。

10 用土の掘削

用土掘削は、1日計画盛土量程度とし、降雨降雪その他の事由により残土が生じた場合は覆いなどを行い過湿、乾燥土とならないよう処置しなければならない。

11 用土のまき出し、転圧

- 1) 用土のまき出し及び転圧は、必ず堤体の縦断方向に施工するものとし、横断方向に層状にならないよう注意しなければならない。
- 2) まき出した土は、その日のうちに締め固めを完了する事を原則とする。
- 3) 床掘部の盛土には、基礎及び刃金土の接触を密にし湧水のある時は、発注者の指示に従い処理し、施工しなければならない。
- 4) 地山及び既成盛土との接触面は、特に入念に締め固めなければならない。
- 5) 地山又は、既成盛土との接触面及び地形形状タイヤローラーの使用が不可能な箇所の転圧に際しては、地山との密着及び既成盛土との均一化について特に留意し、タンパー、振動コンパクタ、振動ローラー等によって入念に締め固めをしなければならない。
- 6) 転圧作業にあたり、ローラーの転圧幅は、少なくとも30cm以上重複させなければならない。
- 7) 転圧作業の主力は、タイヤローラーとする。また再び盛土を施工する場合は、表層を切りゆるめた後続行するものとする。なお、標準的まき出し厚、仕上がり厚、転圧回数を次に示す。

盛土の種類	使用機械	締め固め速度	まき出し厚	仕上り厚	転圧回数
遮水性材料	タイヤローラー	3,500m/h	20 cm	13 cm	10 回
ランダム材料	〃	〃	30	22	8
遮水性材料	振動ローラー	1,000	20	13	8
ランダム材料	〃	〃	30	22	4
遮水性材料	タンパ60～100kg	550	10	7	8
ランダム材料	〃	〃	20	14	4

※ 遮水性材料（刃金土） ランダム材（さや土）

- 8) 仕上り厚、転厚回数の決定については現場での施工試験を行い、監督員と協議し決定するものとする。又変更の対象となる。
- 9) 法面部の盛土については、規定以上の寸法の広さまでまき出し、十分締め固めを行い、はみ出した部分は盛土完了後に切りとって、丁寧に土羽打ちをして仕上げるものとする。
- 10) 霜柱や凍結した表土は、必ず除去して転圧するものとする。
- 11) 盛土の施工中において、用土の不適、もしくは転圧の不十分、又は受注者の不注意によって湧水又は、盛土法面の崩壊があった場合には、その部分及びこれに関連する部分の盛土について再施工を命ずることがある。
- 12) コンクリート壁が刃金土と接する場合、原則としてその部分には施工継手を設けないものとする。
- 13) 築堤現場は常に排水を十分にし、雨水等が盛土部分に残留しないよう緩勾配となるよう仕上げなければならない。

12 余盛

堤頂中央部は、10cm程度の高さの「かまぼこ型」に仕上げるものとし、前、後法肩については法面に雨水等の直接流れ込み防止をするように考慮しなければならない。

第2節 付帯構造物

1 樋管工

- 1) 底樋管巻立コンクリート及び止水壁周辺部の盛土は、特に入念に締固めなければならない。また、締固め機械によって底樋管等に損傷を与えないよう十分注意しなければならない。
 - 2) 底樋管上の盛土の転圧にあたり巻立コンクリートの天端から60cmまでは重機械を使用してはならない。
 - 3) ボックスとの接合部で漏水が起きないように細心の注意をしなければならない。
- 2 製作に使用する全ての材料は、十分水圧に耐える強度を有し、各種形状寸法は、正確に図面に適合したものでなければならない。
- 1) 受注者は製作に先立ち、本仕様書及び設計図書に基づき、承認図を提出し、発注者の承認を得るものとする。
 - 2) 製作に使用する全ての材料は、十分水圧に耐える強度を有し、各種形状寸法は、正確に図面に適合したものでなければならない。
 - 3) 鋳鋼、鋳鉄、砲金等の鋳造品は十分な押湯をし、表面平滑であって鋳房、気泡、その他鋳造上の欠点のないものでなければならない。

第3節 施工管理

- 1 盛土の施工にあたっては、施工管理試験を行って、所要の締固め度や透水係数が得られるよう管理しなければならない。
- 2 含水比 最適含水比±5.0%
前記の試験の結果、管理基準値（許容値）に達しない場合は、発注者の指示に従うものとする。

第4章 その他

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

工事数量総括表

本工事費	費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量(前回)	数量(今回)	備 考
災害復旧工事			式		1	レベル1
土工			式		1	レベル2
掘削工			式		1	レベル3
土砂掘削(残土)		土砂	m ³		188	レベル4
土砂掘削(流用)		土砂	m ³		95	レベル4
盛土工			m ³		287	レベル3
盛土		土砂	式		1	レベル4
整形仕上げ工			式		1	レベル3
法面整形(盛土部)		レキ質土,砂及び砂質土,粘性土	m ²		167	レベル4
残土処理工			式		1	レベル3
残土処理			式		1	レベル4
法面工			式		1	レベル2
植生工			式		1	レベル3
張芝工		人工芝	m ²		167	レベル4
石・ブロック積工			式		1	レベル2
作業土工			式		1	レベル3
整形仕上げ工			式		1	レベル3

工事数量総括表

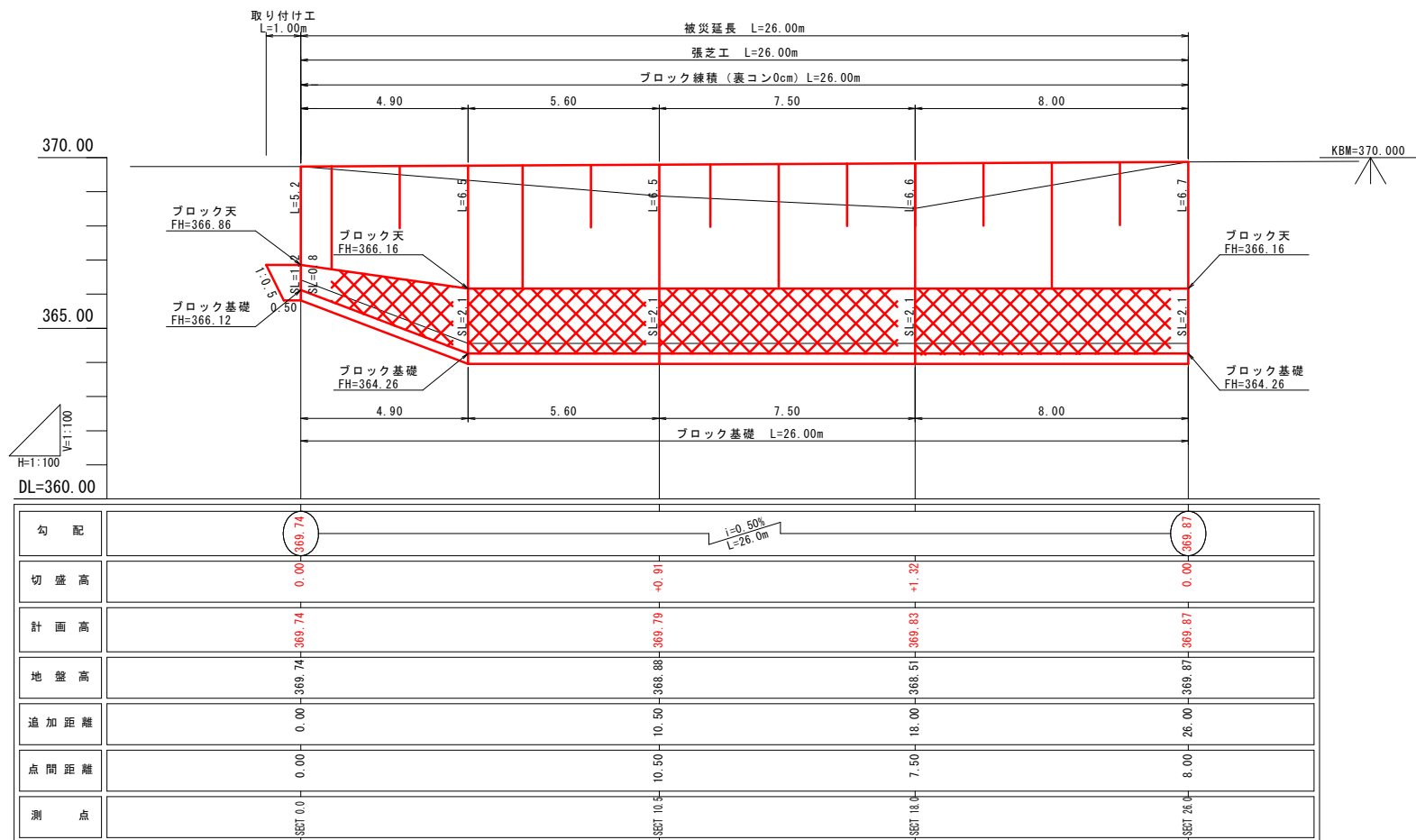
費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量(前回)	数量(今回)	備 考
法面荒仕上(掘削部)	レキ質土,砂及び砂質土,粘性土	m ²		37	レベル4
コンクリートブロック工		式		1	レベル3
コンクリートブロック基礎	18N-8-40BB	m		26	レベル4
コンクリートブロック積み	間知ブロック150kg/個未満	m ²		52	レベル4
裏込材	RC-40	m ³		27	レベル4
すりつけ工		式		1	レベル3
石積	練積 現場発生材	m ²		1	レベル4
構造物撤去工		式		1	レベル2
構造物取壊し工		式		1	レベル3
コンクリート構造物取壊し	無筋構造物	m ³		4.2	レベル4
殻運搬・処理	Co殻(無筋)	m ³		4.2	レベル4
直接工事費					
共通仮設費率分額					
共通仮設費計					
純工事費					
現場管理費					
工事原価					
一般管理費率分					

計画平面図
S=1:500

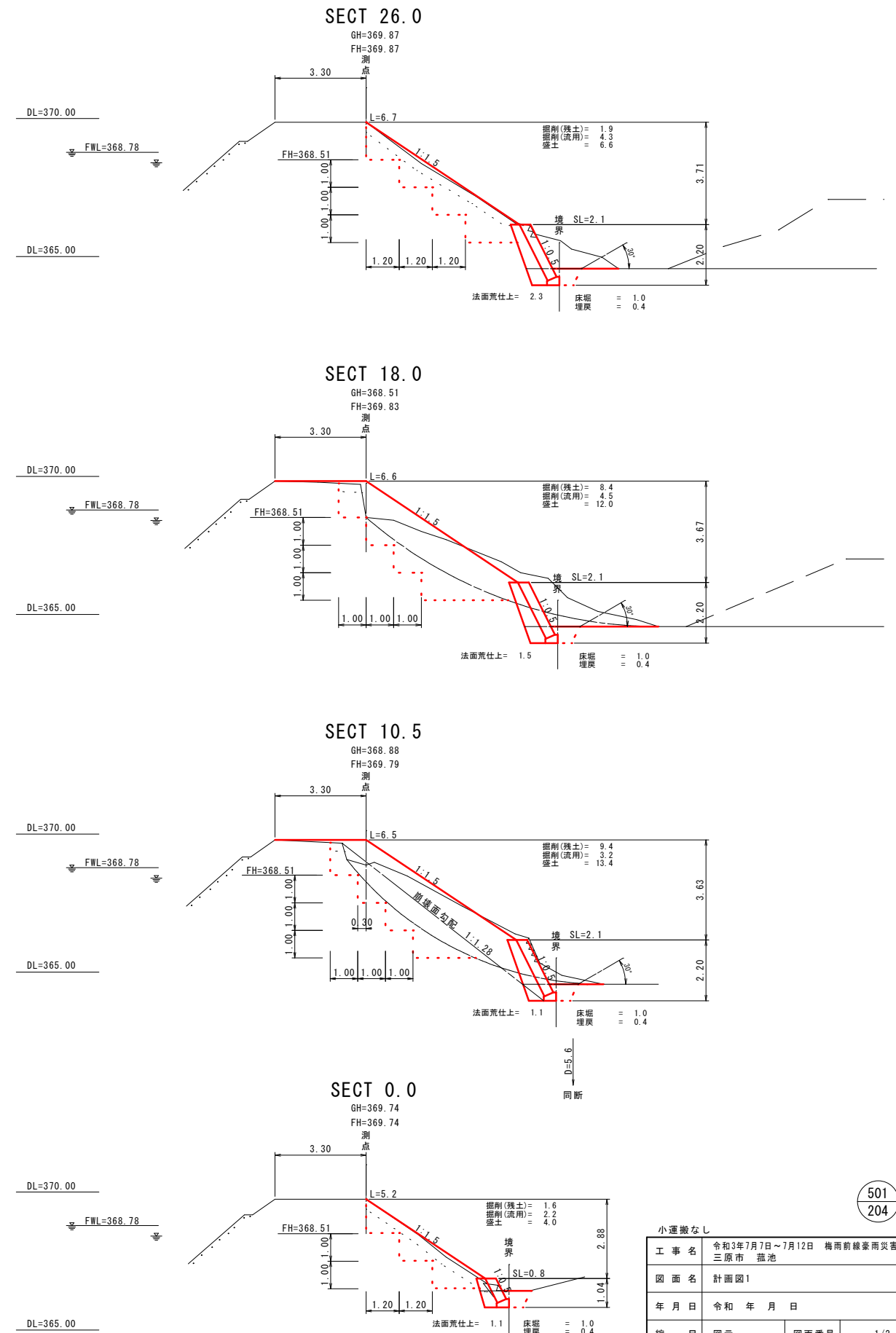


背景写真は国土地理院撮影の航空写真を使用

縦断面図
S=1:100



計画横断面図
S=1:100



縮尺率 A1: 100% A3: 50%

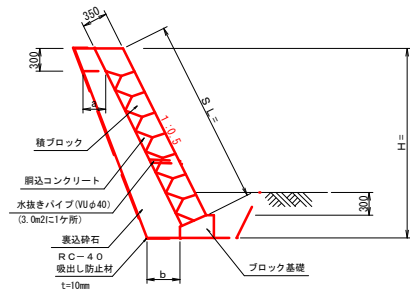
501
204

小運搬なし			
工事名	令和3年7月7日~7月12日 梅雨前線豪雨災害 三原市 菰池		
図面名	計画図1		
年月日	令和 年 月 日		
縮尺	図示	図面番号	1/2
会社名			
事業主体	三原市		

構造図

構造物取壊し

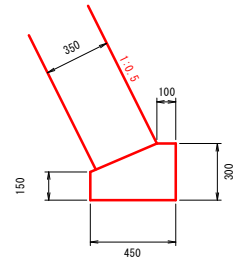
ブロック積擁壁
S=1:50



表込砕石数量・寸法表

測点	表込砕石	a	b
SECT 0.0	0.43	0.38	0.43
SECT 10.5	1.06	0.37	0.54
SECT 18.0	1.06	0.37	0.54
SECT 26.0	1.06	0.37	0.54

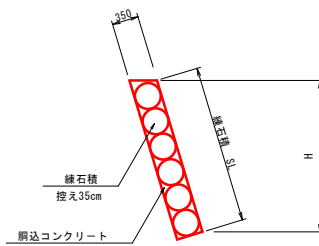
ブロック基礎
S=1:20



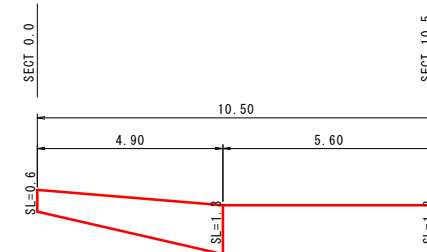
10m当り

名称	単位	数量
コンクリート	m ³	1.09
型枠	m ²	4.50

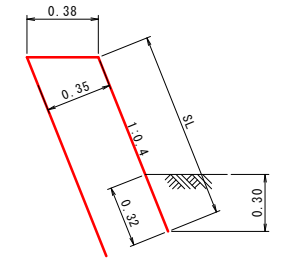
取り付け工
S=1:50



展開図
S=1:100



構造図
S=1:20



小運搬なし			
工事名	令和3年7月7日～7月12日 梅雨前線豪雨災害 三原市 菰池		
図面名	計画図2		
年月日	令和 年 月 日		
縮尺	図示	図面番号	2/2
会社名			
事業主体	三原市		

参考資料

(菰池災害復旧工事(501))

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 68 三原市(久井) 00-04.01.01(0) 9 公共(011015~)		
諸経費工種 工事費端数区分 週休補正区分 施工地域・工事場所区分 契約保証費区分 前払支出割合区分 軽油区分 復興補正区分 I C T 補正区分	<p style="text-align: center;">当世代</p> 15 その他土木工事(2) 01 千円未満切捨 00 補正なし 05 中山間地域 01 金銭的保証(0.04%) 00 補正なし 00 一般軽油使用 00 補正なし 00 補正なし	<p style="text-align: center;">前世代</p>	

本工事費

内訳表

本工事費	費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	災害復旧工事					レベル1
	土工	1	式			レベル2
	掘削工	1	式			レベル3
	土砂掘削(残土) 土砂	1	式			レベル4
	掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準以外	188	m3			00
	土砂掘削(流用) 土砂	188	m3			単第 0 -0001号表 レベル4
	掘削 土砂 上記以外(小規模) 標準以外	95	m3			00
	盛土工	95	m3			単第 0 -0001号表 レベル3
		1	式			

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
盛土 土砂									レベル4	
	287			m3						
盛土(ランダム材)									00	
	287			m3					単第 0 -0002号表	
ランダム材									00	
	252			m3					単第 0 -0006号表	
整形仕上げ工									レベル3	
	1			式						
法面整形(盛土部) レキ質土,砂及び砂質土,粘性土									レベル4	
	167			m ²						
法面整形 盛土部 法面締固め無し 現場制約無し レキ質土,砂及び砂質土,粘性土									00	
	167			m2					単第 0 -0009号表	
残土処理工									レベル3	
	1			式						
残土処理									レベル4	
	188			m3						
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間無し 距離7.0km以下(5.5km超)									00	
	188			m3					単第 0 -0010号表	

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
床掘り 土砂 上記以外(小規模)	26		m ³						00	
埋戻	10		m ³						単第 0 -0012号表 レベル4	
機械併用埋戻(小規模土工)	10		m ³						00	
整形仕上げ工	1		式						単第 0 -0013号表 レベル3	
法面荒仕上(掘削部) レキ質土,砂及び砂質土,粘性土	37		m ²						レベル4	
人力荒仕上げ(整形工) 土砂	37		m ²						00	
コンクリートブロック工	1		式						単第 0 -0016号表 レベル3	
コンクリートブロック基礎 18N-8-40BB	26		m						レベル4	
ブロック基礎工 A300-B450(盛土用)	26		m						00	
									単第 0 -0017号表	

本工事費

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
純工事費						
現場管理費						
工事原価						
一般管理費率分						
契約保証費						
一般管理費計						
工事価格計						
消費税相当額計						
請負工事費計						

施工単価表

掘削

SPK21040001

単第 0 -0001号表

土砂 上記以外(小規模)

標準以外

1

m3 当り

機械構成比: 23.01% 労務構成比:

69.05%

材料構成比: 7.94%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,337.8000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	23.01%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	69.05%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.94%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂 F=8 標準以外			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

積込(ルーズ)

SPK21040007

単第 0 -0003号表

土砂

小規模(標準以外)

1

m3 当り

機械構成比: 23.01% 労務構成比:

69.05%

材料構成比: 7.94%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,594.7000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	23.01%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	69.05%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.94%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂			B=5 小規模(標準以外)		

施工単価表

整地
敷均し(ルーズ)

SPK21040003

単第 0 -0004号表

機械構成比: 19.69% 労務構成比:

狭小幅員(幅2.5m以上4m未満)

73.87% 材料構成比: 6.44%

市場単価構成比: 0.00%

1
標準単価:

m3 当り

321.2600

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ブルドーザ 普通・排1 3t級(3~4t)	19.69%		ブルドーザ 普通・排1 3t級(3~4t)		MTPC00001 MTPT00001
運転手(特殊)	53.80%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	20.07%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	6.44%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 敷均し(ルーズ)			B=3 狭小幅員(幅2.5m以上4m未満)		

施工単価表

ため池工事締固（振動ローラ）
 搭乗式コンバインド型 3.0～4.0t級

仕上厚0.22m 締固め4回

単第 0 -0005号表

1 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
<賃>振動ローラ(搭乗・コンバインド式) 質量3～4t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	1.40	日			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	12.80	L			3.2*4
運転手(特殊)	1.00	人			
諸雑費	1	式			
1 m3当り		m3			
単位当り	1	m3			
A=2 搭乗式コンバインド型 3.0～4.0t級 C=0.22 仕上り厚さ(m) E=1000 締め固速度(m/h)			B=4 締固め回数(回) D=0.4 作業効率 F=1.4 運転日当り賃料日数(搭乗式コンバインド型)		

施工単価表

積込(ルーズ)

SPK21040007

単第 0 -0007号表

土砂

土量50,000m3未満

1

m3 当り

機械構成比: 43.20%

労務構成比:

38.90%

材料構成比:

17.90%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

200.9100

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.8/平積0.6m3	43.20%		バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.8/平積0.6m3		MTPC00014 MTPT00014
運転手(特殊)	38.90%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	17.90%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂			B=1 土量50,000m3未満		

施工単価表

土砂等運搬

SPK21040002

単第 0 -0008号表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)

DID区間無し 距離1.0km以下(0.3km超)

1

m3 当り

機械構成比: 19.75% 労務構成比:

70.85% 材料構成比: 9.40%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,418.7000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	19.75%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	70.85%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.40%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=5 距離1.0km以下(0.3km超)			B=6 バックホウ山積0.13m3(平積0.1m3) D=1 DID区間無し		

施工単価表

法面整形

SPK21040024

単第 0 -0009号表

盛土部 法面締固め無し 現場制約無し

レキ質土,砂及び砂質土,粘性土

1

m2 当り

機械構成比: 13.80% 労務構成比:

73.63% 材料構成比: 12.57%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

390.2200

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>バックホウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	13.80%		バックホウ クローラ型 山積0.8m3(平積0.6m3)		KTPC00018 KTPT00018
普通作業員	33.08%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
運転手(特殊)	27.90%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
土木一般世話役	12.65%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	12.57%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 盛土部 C=2 現場制約無し E=1 -(全ての費用)			B=2 法面締固め無し D=2 レキ質土,砂及び砂質土,粘性土		

施工単価表

土砂等運搬

SPK21040002

単第 0 -0010号表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)

DID区間無し 距離7.0km以下(5.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 19.75% 労務構成比:

70.85% 材料構成比: 9.40%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

3,688.6000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	19.75%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	70.85%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.40%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=32 距離7.0km以下(5.5km超)			B=6 バックホウ山積0.13m3(平積0.1m3) D=1 DID区間無し		

施工単価表

床掘り

SPK21040015

単第 0 -0012号表

土砂 上記以外(小規模)

1

m3 当り

機械構成比: 22.07%

労務構成比: 70.62%

材料構成比: 7.31%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,986.0000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3	22.07%		バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・排2 山積0.28/平積0.2m3		MTPC00083 MTPT00083
運転手(特殊)	38.15%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員	32.47%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.31%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂 E=1 -(全ての費用)			B=5 上記以外(小規模)		

施工単価表

機械投入(バックホウ)

SPK21040007

単第 0 -0014号表

土砂

小規模(標準以外)

1

m3 当り

機械構成比: 23.01% 労務構成比:

69.05%

材料構成比: 7.94%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,594.7000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	23.01%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	69.05%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.94%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 土砂			B=5 小規模(標準以外)		

施工単価表

コンクリート

SPK21040140

単第 0 -0018号表

小型構造物 18-8-40BB

人力打設

1

m3 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比:

44.55%

材料構成比:

55.45%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

28,111.0000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	25.54%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	8.75%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	7.99%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	55.45%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPCD0010 TTPT00343
積算単価			積算単価		E9999
A=2 小型構造物 C=2 18-8-40BB H=2 現場内小運搬無し K=1 -(全ての費用)			B=3 人力打設 F=2 一般養生 J=1 -		

施工単価表

型枠

SPK21040142

単第 0 -0019号表

一般型枠

小型構造物

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

7,775.2000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	45.16%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	30.69%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	11.11%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=2 小型構造物		

施工単価表

裏込工（ブロック積・ブロック張）
ブロック積み

再生クラッシャーラン（RC - 40）

単第 0 -0021号表

10

m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.50	人			
普通作業員	1.40	人			
再生クラッシャーラン 40～0mm	11.1	m3			
諸雑費	12	%			
合計	10	m3			
単位当り	1	m3			
A=4 C=0 再生クラッシャーラン（RC - 40） 裏込材単価（円/m3）			B=1	ブロック積み	

石積工（現場発生材）

施工単価表

単第 0 -0022号表

頁0 -0030

10 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.54	人			
石工	0.86	人			
普通作業員	1.0	人			
機-28_バックホウ運転(賃料) クレーン付2.9t吊 山積0.45m ³ 排対1次	0.65	日			単第 0-0023号表
特殊作業員	0.15	人			
普通作業員	0.21	人			
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	1.37	m ³			
雑材料	12	%			
諸雑費	1	式			
合計	10	m ²			
単位当り	1	m ²			

施工単価表

殻運搬

舗装版破碎

機械構成比: 19.75% 労務構成比: 70.85%

SPK21040138

DID区間無し 運搬距離9.0km以下(7.0km超)

材料構成比: 9.40%

単第 0 -0025号表

1

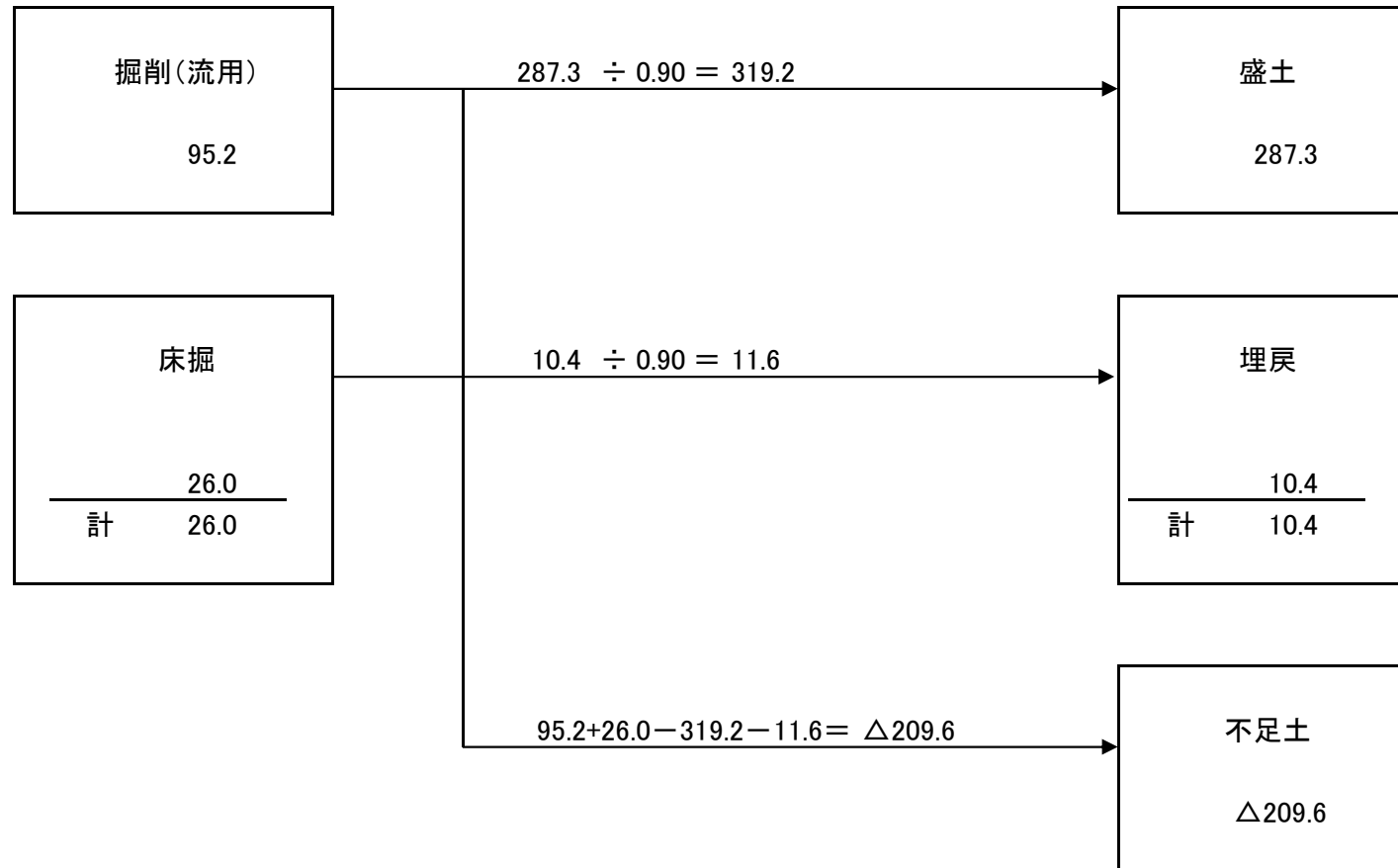
m3 当り

標準単価:

5,532.8000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	19.75%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	70.85%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.40%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=4 機械積込(小規模土工) D=38 運搬距離9.0km以下(7.0km超)		

土量配分表



位置図
(34.502990, 132.999228)



この図は、国土地理院地図を使用したものである。